

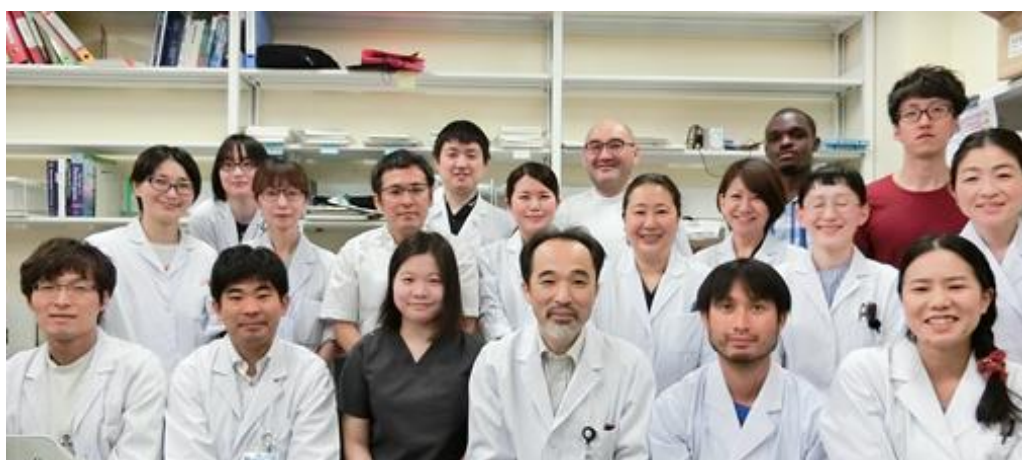
少し変わった臨床医 ～病理医～ を目指してみませんか

みなさんの中には、病理学と言いますと基礎医学というイメージを持っておられるかもしれませんが、しかし、2007年に厚生労働省の医道審議会標榜部会において「病理診断科」の標榜が承認されて以降、病理学は内科や外科などと同等に臨床診療科の一員へと変貌しました。その中で、病理医は、質の高い病理診断のみならず、医療の劇的な進歩に対応した病理診断を求められ、従来ありがちな研究の片手間に行う病理診断や一方通行の病理診断では、もはや臨床現場からの期待には応えられない時代になっています。すなわち、病理診断が、医療現場のみならず社会においても、より大きな役割や責任を求められる立場になったと考えられます。

現在、多くの大学附属病院や大きな市中病院では、病理診断科を創設し、病理医を求めています。しかしながら、現在、日本では病理医不足という大きな問題に直面しています。人口10万人に対して病理医の数はアメリカで約6人であるのに対して、日本は約1.3人（ちなみに和歌山県は1.1人で都道府県ワーストです）しかいません。さらに病理医の平均年齢は52歳を超えたと言われており、高齢化問題も深刻です。こうした中で、近年、多くの大学で病理診断科への入局を希望する若い医師が徐々に増えてきています。その理由は、医療従事者の中で病理診断学の重要性の認識が深まってきたこと、近年のAIや分子標的薬等の医療技術の進歩にダイナミックに直接接することができること、あるいは“Doctor's doctor”として患者とは直接は接しないことをメリットと考える医師が出てきたこと、また、収入も他の臨床科の医師と同等であること、などがあると思います。和歌山医科大学病理診断科にも今年度、新しい入局者がありました。私どもの教室は非常に若いスタッフで構成されていて、教授を除くと全員が45歳以下で、活気ある中で、楽しく働ける職場となっています。また、指導体制もしっかりしていて、若いスタッフが直接指導してくれます。

あなたも、少し変わった臨床医 ～病理医～ を目指してみませんか。一度、私たちの教室に遊びにきてください。また、ホームページ (<http://w-hupath.umin.jp>)を訪ねてみてください。

和歌山県立医科大学・人体病理学教室／病理診断科
教授 村田 晋一



和歌山県立医科大学 病理診断科に興味を持って下さりありがとうございます。

専門研修プログラムの具体的な内容に関しましては、以下のページをご参照ください。また、お問い合わせに関しては、どうぞお気軽にご連絡ください（当科ホームページをご覧ください）。

キャリア形成プログラム：<http://www.cmssc.jp/careerprogram/pdf/byouri.pdf>

専門研修プログラム：https://www.wakayama-med.ac.jp/med/sotugo/koki/pdf/14_byouri.pdf

当科ホームページ：<http://w-hupath.umin.jp/>

ここでは、カタい話はさておき、当科の魅力を皆さまに知っていただくために「生の声」をお届けしたいと思います。

数名の医局員に「当科の魅力を自由にお答えください」とアンケートをしました。その回答を紹介していきます。

アットホームな職場です。上級医が懇切丁寧に説明します。未経験者歓迎！
移籍して1年も経たない身ですが、決して怪しい職場ではなく、額面通りの良質な研修が出来る職場だと感じています。
和歌山と侮る勿れ。病理を本気で研修されたい方は、京阪神で後悔される前に（？）一度見学されることをお勧めします。

回答：既にサブスペシャリティを持っている若手病理医 A 先生

近畿の端っこ、和歌山に少なからず怪しさを感じられる方もいるかもしれませんが、A先生は居心地よく過ごせていただけるようです。

A先生だけでなく、当科は和歌山以外の大学や病院から移ってこられた先生が多く、その多様性は当科の大きな魅力と感じております。各々が得た異なる施設での経験や知識を持ち寄ることでお互いを高めあえております。また、それぞれの人脈があり、他施設への先生のコンサルテーションもスムーズに行える環境にあります。

- ・長い棒で暴れる病理医がいる（暴れん棒将軍）
- ・関西一、いや日本一イケメンの病理医がいる
- ・関西一、いや日本一筋肉に詳しい病理医がいる

回答： 関西一、いや日本一テニスに明け暮れている中堅病理医 B 先生

真面目にアンケートをとったのにふざけた回答が返ってきました(笑) A 先生の回答通り、アットホームさが伝わっているのではないかなと思います。

長い棒やイケメン、筋肉の話に少しでも興味がわいた方はぜひ一度ご連絡下さい。

「お昼寝できます」

「朝昼晩ご飯を定時に食べられます」

「リフレッシュ休暇をいつでもとれます」

「自分のペースで仕事ができます」

「希望しなくとも、上級医（教授含む）から懇切丁寧な指導を受けられます」

回答： 当科エースのイケメン病理医 C 先生

on-off がはっきりしているのは全国的にも病理の特徴かなと個人的には思っていますが、当科でも働きやすい環境は整っているほうだと自負しております。

具体的なイメージは、C 先生の回答から感じて頂ければ、と思います。

私の仕事は誰がやってもいい仕事です。でも誰かがやらなければいけない仕事でもあります。そういう仕事が会社や社会を支えていると思っています。

人体病理学教室／病理診断科も、そういう地道に医療の支えとなる大事なものだと思います。しかし働いてみると色んな先生方がいまして、変わっていると他人に言われることに嬉しさを見出している先生、職場に寝袋で宿泊している先生、自転車で通勤して検査室にて着替えと水道の蛇口をシャワー代わりに頭を洗っている先生、毎週同じお弁当を食べ続ける先生、お昼寝している先生、駅から職場まで一心不乱に歩く先生、声優並みの可愛い声の先生、お菓子にかなり思い入れのある先生、などなど魅力にあふれた先生方が働いています。

回答： 秘めたる才能を随所に発揮する医局秘書 D さん

客観的な意見もあればと思い、医師以外の視点からの回答を皆さまにご覧いただきました。

「病理医＝変」みたいなイメージを一般に持たれることが多いかと思いますが、少なくとも当科では証明されてしまったようです・・・

皆さまにどう受け止められるか分からず若干の不安は感じますが、D さんの回答を見て、当科へ足を運ぶハードルが少しでも下がってくれることを祈っております。

- ・アットホームな雰囲気。ユニークで優しい先生が多い。
- ・放射線科と病理診断科は同じ診断学を扱う科として関わることが多いが、病理の先生達は他科の意見も尊重して聴いてくれる先生ばかりなので、議論がしやすく、かつ楽しい。
- ・教育体制がしっかりしている。
- ・業務内容が診療方針決定に深く関わるため、非常にやりがいがある。
- ・病棟業務などが無いため、時間の制約は比較的少なく、自分のペースで仕事がしやすい。
- ・病理専門医試験で1位をとった天才病理医が所属している。

回答： 放射線科医でありながら病理専門医クラスの診断能力を持つ E 先生

客観的な意見その2ということで、当科に週1回診断の仕事をしに来てくれている放射線科の先生にも回答してもらいました。

E 先生にも、雰囲気の良さや働きやすさを感じてもらえているようです。

現在は消化器外科の先生も来てくれており、院内での他科との連携、ディスカッションがしやすい環境にあり、病理側としても大変勉強になっています。

「生の声」、いかがだったでしょうか。
当科の雰囲気皆さまに伝わっていただければ幸いです。

少しでも興味を持っていただいたそのあなた!!
このページを閉じる前に、ぜひ一度当科ホームページにアクセスし、お気軽にご連絡下さい。
いつでもお待ちしております。

当科ホームページ：<http://w-hupath.umin.jp/>